

事業費総額 二〇、〇七七、五七八千円

国	費五、八九七、七二一	地方債	七、二三五、五〇〇
道	費一、二〇四、九二四	一般財源	四、九〇八、八七七
関係町分担金	六九九、五六六	その他財源	一三一、〇〇〇

事業の計画内容

自昭和四十七年度至昭和五十五年度 九年にわたり各町が単独または共同で国費、道費の補助をうけて行う事業を含む。

道路（資金一、二五一、一九三千元）

中心市街地と集落を結ぶ道路、町の中心地を連絡する道路、あるいは、産業開発の道路など、圏域の基幹道路となる町道の改良と舗装および歩道の整備を重点的に行ない、目標年次には主要町道三四％その他の町道は一三％が舗装され、橋梁はほとんどが永久橋化される。

道路機械（二二三、三二〇千元）

港湾関係事業（四七三・八二八千元）

消防救急事業（六九八、四九〇千元）

生活環境整備（七五七、八五八千元）

ごみ処理、し尿処理とも日高西部・中部・東部の一部事務組合で実施そのための施設の新設と増設費

保健衛生（六四六、二九四千元）

看護婦養成所新設、病院の増改築、母子健康センター

社会福祉施設（六五〇、六六二千元）

福祉センター、労働福祉センター、特別養護老人ホーム、健康センターなど

教育文化（二、二二九、一五〇千元）

学校給食センター、教職員研修センター、青少年科学館、五十米の水泳プール、文化会館、美術館、ファミリースポーツセンターなど。

農業（六三〇、五七九千元）

農地造成、山村開発センター、産業開発センター

野菜貯蔵施設など

水産業（二二五、〇〇〇千元）

漁家団地、漁船漁具保全施設 船員ホーム

商業（三八六、〇〇〇千元）

公設卸し売りセンター 駐車場

観光（一、五八〇、五七〇千元）

各町バラエティーに富んでいる スキー場、キャンプ場、ユースホテル、公園造成、騎馬場、高山植物栽培センター、夏季学生村、国民宿舎、

行政事務の合理化（三四、六〇〇千元）

電子計算センター

一八 日高への提言

明治五年浦河支庁が設置されて以来日高は今日迄一世紀を経過し、その間の拓殖開発の推移をたどりながら今後の発展に大きな抱負を以てさらに前進を続けているが、現在はまだその転換期を迎えている。

この時に当り戦後の見識豊かな歴代支庁長を迎えて卒直な提言をきき、同時に現に地方自治に精魂を傾けている管内各町長を招いてそれぞれ地域の現況とその要請する問題を促して、進むべき日高将来への指針たらしむべく懇話会を催した。集う各支庁長は在任当時を回顧し、なすべき未解決の施策、心残り多い懸案事項を思い、現時点における日高開発への限らない欲求など卒直に披歴され、ここに新たな振興策を寄せられたし、さらに杉本栄一道議会議長、原清重道議会議員の提言は錦上添花を添えるものとして何れも、日高への関心の深さを思い、地域住民均しく感銘を覚えるものである。

そして日高への提言は一断片たりといえども傾聴に値するすべてのものであり、それが日高を培う推進力であることを確信する。

「青年日高」それは世紀を記念して現川端支庁長の命名するところ、堂垣内知事に揮毫を煩わした。日高の過去、現在を通して新しい未来への躍進を象徴する名称であり、新たな目標を暗示するものでもある。そして日高が濤刺とした明るい時期に入ったことを意味する。

人口十二万余の日高の住民は今こそ足並を揃え飛躍日高への輝かしい栄光の道にスタートしなければならない。

提言

北海道議会議長 杉本 栄一

日高管内は、昨年度日高地方振興協議会が中心になって、五十五年までの十年の広域生活圏計画を策定している。当面は私も管内十二万住民の英知と協力によって、この計画の達成に努力しなければならないと考えており、私も支庁長を初め町村長と一緒に、この計画の達成のため協力して参りたい。

すでに皆様もご案内のとおり、田中首相の日本列島改造論が日本の将来方向の指針として論議されており、この実現に首相は私的諮問機関として日本列島改造懇談会を発足させ、フレーム（将来展望）について各階各層の意見を聞いているが、管内においても北海道の第二世紀の中で、明るく豊かな郷土を建設することが可能な時代を迎えているのであるから、町村長の私的諮問の形で、例えば日高総合開発期成会の中に、「日高の第二世紀を開発する委員会（仮称）」を設置するなどして積極的に日高の将来動向を考察しながら長期的展望に立った開発の方向について検討してみようだろうか。

管内には郷土の開発に情熱を燃やしている青年開発会議などがあるので、これらの青年の意見なども大いにとり入れ、青年の郷土を愛するエネルギーが開発の英知となって地域開発に活かされることを思い、あえて提言した次第である。

歴代日高支庁長

第二〇代 大塩 礼

○農業・畜産のあり方として、日高は気象条件に恵まれ、天与の土質が全道一と定評のある石灰分豊かな良質な日高の牧草をはぐくみ、その生産が日高をして馬産王国たらしめたが、馬に適する牧草は同時に牛にも適するがゆえに肉牛、酪農を開発しその生産拡大を図ることが急務である。そしてこれに関連する肉加工場の誘致を考慮すべきである。

また、恵まれた気象条件は果樹栽培に適しており、特にアルカリ性の石灰層が管内の土壌基盤なのでこの風土に適する苗をとり入

れ、醸造用ブドウを栽培することは可能と思われる。すでに十勝池田町では町長の発案で立派に企業化されている。これが計画に対しては現支庁長は大いにバック・アップすべきである。

ともあれ、肉食とブドウ酒は不離であり、現在の日本人の食生活を通して需要は必ず増すものと考えられる。

なお、今後苫小牧市の躍進を念頭に置き、これに近接する日高として園芸や農作物の増産体制を今にして考慮することが肝要である。

さらに、なすべきことは、他管内に模倣することなく日高独特のものを考案することが大切で、このことは観光客招致にも一役を担うであろうし、日高の経済を潤すことにもなる。

第三代 土橋 武士

私の在任当時、日高は重要視はされてはいたものの十分に認識されてはいなかった。

それ故、日高総合開発期成会が誕生して開発計画を樹てようとした際、地図を作製し文字で見るとより絵によって日高を知らせようと努力したものである。

また私は河川の開発に着眼し、水力発電所を建設することによって流域の氾濫を防ぎ、奥地の開発を推進しようと考えたものの、在任短かく果しえなかったが、現在着々と工事が進められていることを思い喜んでいる。

今日提言したいことは、馬のみに依存する畜産経営はやもすれば危険を伴うし、牧場は多過ぎると思われる。従って依存度を徐々に少なくし繊維、肉資源としての細羊、ジャージー牛などの粗飼料にたえるもの、豚など小家畜を含めた総合的な飼養に転換することが望ましいと思う。

また日高山脈に埋蔵されている未知の地下資源の開発を急速に推進して、これを企業化する方途を講じてほしい。さらに森林資源も有効に活用することが大切である。

日高は大きな産業の開発の可能性は十分にあると考えている。

第二九代 鈴木 勘蔵

海岸侵蝕の防止策がなされるが、今後、災害の多発が予想されることを懸念は未だ十分とは言えないので万全を期してはしむべきである。また、日高の観光資源を有効に活用する必要がある。

アイヌ対策の一環として郷土館の建設実現を考えていたがこれが完成を見たことは喜ばしい。今後は福祉対策を促進する必要がある。

日高は自然を生かす保養地区として、また東部苫小牧との関連で魚肉・果菜類の食糧基地として「北海道のかなめ」になれる将来性は十二分にある。

さらに日高東部工業開発との関連においても、日高の観光の在り方を決めて置くべきである。

日高は苫小牧東部の発展に伴い、変貌は必至でこれが現実の問題である。その時期が到来する前に、それに対応する心構えが大切である。

電源開発の問題、環境と調和した開発、自然が要求してくるのではないか。

第三〇代 加畑 長一

日高管内にアスバラ工場など誘致する場合、一工場で百ヘクタールの作付が最少限で、これ以下であれば経営は成り立たない。従って原料が集荷出来れば工場建設も可能と思われる。それ故、当該町だけでなく原料確保のためには近隣町村の協力体制が望ましい。また、肉の加工による畜産の振興は相当考える必要がある。例えば、一般向きの雑肉ソーセージだけでなく、高級品を生産して販路を延ばすようにしなければならない。

さらに管内の振興策の一としてシャクナゲ、ツツジなどの緑化産業などをとり入れて見る必要がある。

文教面では、文教地域として環境が整っているので大学を誘致することが望ましい。現在短大のないのは日高、根室、檜山支庁のみである。

要するに、日高発展の事業に当っては、生活環境を十分に活用することが肝要であると同時に、その町独自のすることについても、管内挙げてこれに協力する体制をつくる必要がある。

第三一代 山田 光男

農業の新しい方向として、最近注目されている緑化産業の育成を考える必要がある。

日高の人は花を好むのが特徴であるから花木類の栽培を目指したい。

花を愛することは生活を豊かにし美化することに通ずる。しかも気象条件のよい日高は花をつくる最適の地域である。新潟をはじめ

内地から花木の需要先が本道で相当額にのぼっている。従ってこれを活用することが将来のよい産業となるであろう。シャクナゲなどの産業化も考えるべきである。

下水道の施設、住宅の整備など積極的に行って、生活環境を整えることも早急な懸案事項である。

商港、漁港の整備、漁獲物処理の改善施策、浦河町の水産技術研修センターの後継者づくり等々水産振興に努力してほしい。

過疎問題については、第二次産業人口の構成比を高めることが先決と思われるから、苫小牧東部との関連において公害のない軽工業の誘致が必要と考えられる。

日高の青年は温和過ぎる、スポーツの交流をはかるなど、後継者の役割を果たす意欲を持たせることが大切である。最近全道的な大会が多く催されたことはたのしい。第三期の計画では教育の問題を含み人づくり健康づくりの基地として北海道は適しているが、なかでも日高は最もよいと思う。

第三五代 渡辺 邦雄

恵まれた自然が豊かであるが、土地が狭いのでこれを如何に利用するか、若い人の意欲と考えを行政に反映させ、日高を育て発展を考える施策を講じなければ将来に悔を残すことになる。

日本列島改造論等のなかでも自然のよい日高に対する施策が種々でてくるものと思われる。

私は若い人が中心となって日高を考え青年の夢を育てて行くため、全日高青年開発会議を発足させたが、彼等の希望と夢が現実となっていくことを願っている。

日高は生活保護が多く、かつ医療面は極めて立ち遅れていることから地域センター病院の創設を第一に、医療体制の充実を図ることが望ましい。

軽種馬問題の解決、栽培漁業の確立、水産ふ化場の実現を期してほしい。

えりもに花樹をつくることは、現況から治山、草生緑化と共に一層推進すべきことである。

日高広域生活圏設立の際沙流三町の問題があったが、最終的には日高一丸となつてやることになったのを喜ぶ。

第二七代 現積丹町長 佐々木 延男

(書簡による)

私はたしか昭和三十年から二年強三年弱、貴庁におりましたが、その間もっぱら静内、新冠、沙流川水系の電源開発四十万キロワットの発電可能説をぶって歩きましたし、たしか岩知志の発電着工式も私時代でございました。

又、幹線道路の整備に若干力を入れ、しばしば室蘭開建及土現に行き陳情致しましたが、本年亡妻の墓参りに行き、当時から見格段の整備ぶり、漁港の良くなったこと、牧場が多くなり、その開拓が進化したことに一驚した次第でございます。

特に開拓では、平松団地を見て来ましたが、ここなども農民努力のあとが現実となって夢のようでございますし、あの風の強いえりも岬の草生にも驚き、支庁所在地の浦河の発展には、時代の流れとは申せ、浜口さんの努力が忍ばれて深く敬意を表しておる次第でございます。

日高は私にとり、昭和五年頃の支庁雇、全十二、三年頃の水産係長時代、更に全三十年頃の支庁長と三回の勤務地であり、知人も多く土地感もあって、一番懐しい地方でございます。懇話会はきつと記録されることでしょうか、出来ましたらこれを紙上参加下されば私の光栄とするところでございます。

まだまだ書くことは充分ございますが、紙面の都合もございましょうからこれで擲筆致しますが、最後に現庁舎は、私の時代に新築し落成式を行ったものでございます。

日高地方のご発展を心からお祈り申し上げます。ご参集の各位にくれぐれもよろしく申して下さい。

ご貴台のご健康をお祈り申し上げます。

(現川端日高支庁長宛書状)

平取町長 山田 佐永一郎

苫小牧東部の開発が進み、土地の評価は高いに拘らず水の評価は低いようだ。

沙流川水域を苫小牧に吸収されるようになっては平取町の発展は著しく阻害される。

即ち、当町の田畑、畜産、下水道、飲料水等々不可欠の沙流川の水資源が奪はれることになるからである。従って平取の開発面の打撃を考え非常に不安を持たざるをえなく、しかもこうした事態の避けがたいであろうことも予測される。それ故、苫小牧の開発と同時に日高の開発を考える必要がある。

第三期開発計画においても一村の将来を考えて大きくとりあげ、行政的、政治的な施策をもってそれを具体的に示して欲しいと思

う。

現在平取は造材の地として木工場を山奥に持っていたが、これも他へ移転し転落してしまった。

国有林は総面積の六十五%を占めているのでこれをある程度払下げるか、民有地と交換して農業耕地の利用を考え、産業開発に役立てることが必要なので、国有林野の払下げを世論に訴える。

観光については素通り観光では意味がない。大自然を住民の経済と結びつけることを考えるべきである。それには国費、道費の大幅な投入がなければならない。足を向け足をとじめる観光でなければならぬ。

水田減少の意志はない。アスパラガス、乳牛は積極的に推進したい。

門別町長 市橋 一郎

何をするにも軽種馬にぶつかっている。五千頭に乳牛を伸ばす約束で工場を誘致したが、約束を守れるかどうか分からない状態にある。

また、苫小牧東部に隣接していることから、野菜・花木の栽培を試みようとしても馬にぶつかっている。

沙流三町が苫小牧につこうとしたが、結局は日高九町に固まったのであるから、今一步総合力を発揮し、協力して行くべきだと思う。

浦河町長 浜口 光輝

苫小牧周辺は将来よくなるが、現状のままで働く人をとられるので日高は過疎化することが考えられる。従って苫小牧に劣らぬ投資をして欲しい。がたっと一たん落ち込んだらもう上ることはむづかしいものである。

歴代支庁長の主唱していることが現在迄努力してはいるが結果していないことを残念に思う。例えば、アスパラガス罐詰の失敗である。㊤(これなどは行政の枠内で力添え(経費の支出)してくれば前進出来る)ジャーシーでも肉牛でも移入させたのはよいが、道はこれに対する適切な指導と助言が足りないと思う。㊦道予算の裏付を要望すること。

日高に果してブドウが出来るかどうか、これについては日高に開花期に霧が多いし、山間部では排水がよくない。従って経済性に問題があるという心配がある。

歴代支庁長は農業畑が多いことを見ても、管内の産業の中で農業が重要視されていることがわかる。

日高管内は将来一つの採掘を迫られる時代が支庁、町の行政の中に出て来ると思う。
例えば、苫小牧の東部開発に関連して沙流川水域の利用をどのように受けとめるかが一つの課題である。また発想の転換を図らねばならない必要がある。

例えば、農作物の振興のために、工場の誘致を図ろうとしても、企業ベースにあった原料の供給が出来ないと言ったことや、通過型観光を如何にして滞在観光に持ちこむかといった事など、各町が競走をするのではなく、一致協力して施策の具体化を図る必要がある。

この場合指導力が不可欠であるので、支庁長が勇断をもってこれに当って欲しい。

教育については、管内は先進的な考え方をもっているのに拘らず、短大すらないということに問題がある。

今後の事業は小規模では駄目だ。地域に根を下して大規模化してゆくことが大切である。第二次加工業の問題を捉えても明らかである。

日高支庁の指導に一貫性が欲しい。その時その時で変るようでは地域の住民はついてこない。

現在役に立っていない物が将来脚光を浴びる時期が来ると思う。従って今日高で役立たないものにも着眼し大切にしていくなが必要がある。

管内開発の具体的提案として、

○札幌の競馬場は公害問題等がでており、別の所に発想の転換を図る必要がある。産地として行き詰っている軽種馬経営の面からも考えて見る必要がある。

○今後は老人福祉対策の問題が大きくとり上げられると思う。管内の気候・環境を生かし、ある区画に樹木を植え、老後の生活をさせることを考え、住宅地とするための宅地の整備をしてはと考えている。

支庁長の任期が一般に短かいのは、人材が日高を足場として伸びていることを現わしている反面、それ故、折角の抱負にも具体性が欠けている。

日高の産業は他の水準と比較して軽種馬を除いては遅れをとっていることは否定できない。これが現状の経営にのみ甘んずる限り、一部を除いて近い将来成り立って行かない状態になることは自明のことと思惟される。

従って、こうした現状に執着する住民意識の壁を取り除き日高の自然的社会的条件を十分有効に正しい姿で活用してゆくことが今後極めて必要なことである。

肉牛、野菜花木など新しい日高に適した農業として団地の形成を育てていかなばならない。また自然の問題についても日高を一体としてレクリエーション基地づくりが必要で、その観点から地域問題研究会の課題としても取り上げ、現在討議が進められている。

苫小牧東部開発の関連に於ては、沙流の開発は日高の開発を前提とする考え方でなければならぬ。仮りに水の問題にしても、必要なのは確保し余力を提供するという姿勢で望みたいと思っている。

馬産地だけに将来競馬場などは是非日高に誘致したいと考えている。

日高管内は地形的条件から海岸線を走る国道と、これから樺の歯のように伸びる道路よりいためこのことが開発を遅らせた要因と考えるが、近年は国道の舗装もなり、日勝道路の開通、浦河大樹線の着工、日高縦貫線の施工、さては静内、中札内の中央道路の予算化の見通し、農道網の整備、大規模特定森林開発に伴う林道網の整備等々、道路、農道、林道の開発によって日高は新しい息吹きの時に入った。道路網の点から見れば日高は正しく道央の重要な一角を占めるに至った。

こうして日高は今、内部にかくされた可能性を掘り起こし、具現する時である。

私は管内を総合的に把握し、指導力を発揮して行かねばならない立場にあるだけに、先輩各位の提言を十分かみしめ、今後の御指導、御支援によって日高の開発行政を進めてゆく決意である。

青年日高、それは日高が明るい開花の時期を迎えたことを意味する。